
六本木アートナイト 2024
外国語対応企画
English Guided Tour: In Dialogue with Roppongi
英語ガイドツアー:いろいろな六本木と対話するツアー

報告書



六本木アートナイト実行委員会



六本木アートナイト2024 外国語対応企画 English Guided Tour: In Dialogue with Roppongi 英語ガイドツアー: いろんな六本木と対話するツアー

1. 報告概要

〈企画タイトル〉

English Guided Tour: In Dialogue with Roppongi

英語ガイドツアー: いろんな六本木と対話するツアー

〈実施内容〉

六本木アートナイト2024の展示作品を巡り、六本木エリアの歴史を知り・深めるための街歩き型作品鑑賞ツアーを実施した。本ツアーは、六本木アートナイト2024の作品と会場となる六本木エリアの街の歴史を織り交ぜ、アートや六本木の知識がなくても楽しめるツアーとした。2024年度は、前年度の六本木アートナイト2023で実施した外国語ツアーのリサーチ内容を踏襲しつつ、昨年度の参加者のフィードバックから「対話(dialogue)」をタイトル・プログラムに盛り込んだ。ファシリテーターによる一方的な解説だけではなく、地域への理解を深めることを目的に、参加者が対話を行うというコンセプトを掲げ、より能動的なツアーとなることを意識した。また、「六本木と対話する」というタイトルにあるように、六本木エリアの歴史・文化的背景を共有していくことで地域固有の文化資源に焦点をあて、地域の魅力を発信していくねらいがあった。このほか、2023年度実施したツアーでは、個別の作品や地点の詳細な解説が相次ぎ、情報量が多くわかりづらいという意見があったことから、2024年度は、導入時の情報量を整理し、展示作品においても、ポイントを絞った説明を行うよう心がけた。

〈実施会場〉 六本木アートナイト2024 各所

〈開催期間および参加人数〉

	予約人数	参加者人数	当日参加者	キャンセル人数
ツアー①: 2024年9月27日(土) 17:00~18:30	17名	17名	2名	2名
ツアー②: 2024年9月28日(土) 20:00~21:30	16名	17名	3名	2名
ツアー③: 2024年9月29日(土) 14:00~15:30	17名	17名	2名	2名
合計	50名	51名	7名	6名

〈事業の目的〉

- ・芸術文化を活用し、多文化共生社会の実現に向けた在留外国人の地域参画を促す。
- ・アートを通じて街への新しい視点をもつことを促し、街の魅力を伝える機会を創出する。
- ・東京のアートシーンやクリエイティブな活動を紹介し、これらの活動に興味を促す。
- ・訪日観光客が日本の歴史や文化に触れ、理解を深める機会を提供する。
- ・街の中にある文化や歴史を発見することで、地域への関心を喚起する。
- ・アートを通じて多様性と包括性を体験し、差別や偏見のない社会への理解を促進する。
- ・海外からの来場者にとって必要な翻訳などのアクセシビリティについて検討する。

2. プログラム内容詳細

地点	参加者への共有内容の概要
六本木ヒルズ《ママン》	・ 集合、受付 ・ ファシリテーター(田中・ジョン・直人)紹介 ・ イントロダクション(ツアーの趣旨、ルートの確認) ・ 注意事項等の確認
六本木ヒルズ 66プラザ	● Hajime Kinoko 《Link》
六本木ヒルズ ウエストウォーク	● 平山亮・平山匠 《平山プロダクション》 ● ツアイ&ヨシカワ 《豊穰の宝石 - Reflection》 ・ 「六本木ヒルズ」がなかった時代の六本木の街
六本木ヒルズアリーナ	● アトリエ シス 《エフェメラル コレクション》
街中散策	・ 武家屋敷の通り、長耀寺 仏教の日本文化への影響 ・ 菩提寺など武家文化との関係性
イグノポール1階、2階	● ウォーターメロン・シスターズ(西瓜姉妹)《ウォーターメロン・ラブ》 ● シン・チー(辛綺)《光るガジュマルの木の下で》 ※ツアー③では鑑賞なし
朝日神社	・ 神社とは何か ・ 港区にある神社の系譜
芋洗坂	・ 「芋洗坂」の名前の由来 ・ 六本木エリアの地形的特徴
ジOTTハウス	● ユエン・グァンミン(袁廣鳴)《日常戦争》 ※ツアー③では鑑賞なし
六本木交差点	・ 六本木エリアの街の成り立ち (テレビ局開局、クリエイターが多く集まる街となった背景)
東京ミッドタウン	● 久保寛子《あおぎつね》 ・ 六本木エリアの神社・信仰の系譜 ・ 参加者と作品や内容を振り返り、アンケート回収、解散

●ツアーに向けた事前リサーチのポイント

- ・ 外国語ツアーという性質上、日本に訪れることがはじめてという訪日観光客でも気軽に参加ができることを目指した。その上で、六本木エリアの街中に点在する作品の鑑賞になるべく多くの地点を経由するようにルートを組んだ。
- ・ 今回のツアーでは、2023年度までに実施された外国語対応企画の報告書や、これまで実施したツアーで取り上げられた地域の情報を参考に、ツアーを制作した。
- ・ 出展作品については、個別の解説に加え「①社会的評価が定まっていないからこそ、個人が自由に評価してよい」「②言葉では伝えにくいメッセージをより力強く伝えられる」「③物理的な作品だけでなく周辺環境を取り込む」といった3つの軸で紹介することとした。
- ・ 2023年度好評だった日本や六本木地区の歴史に関する要素は、作品をめぐる街中での解説として織り込んだ。具体的には、六本木地区の歴史に関して「どのように六本木は国際都市となったのか」という大きな問いをテーマとし、その解説を「江戸時代」「昭和時代」の2点に絞って、問いに対する答えを探るようなものとした。
- ・ 街の歴史という観点では、先史時代までリサーチの範囲を広げ、参加者のルーツや文化的背景に関わらず共通の話題が可能になるようなトピックとした。
- ・ 『港区史』『新港区史』等の書籍、港区立郷土歴史館の展示内容を参考にした。先史時代といった歴史的なトピックから現在の街、そして作品解説につなげることができるポイントを重点に文献を調査した。
- ・ 事前にフィールドワークを行い、実際に作品が設置される場所から見える風景がどのように歴史につながるかを考慮し、現在と歴史的背景をつなげる試みとした。
- ・ 実地に加え、国立国会図書館オンラインといったウェブサイトで、かつての六本木の街を知ることのできる一次・二次資料を調査した。また、一部を印刷し、ツアーの街歩き中に解説する際に使用した。
- ・ 対話型鑑賞の手法では、スタートする前に個別で参加者から質問や気になる点を聞き出し、以降のツアーの解説に織り込むこと、一般的な解説だけでなくファシリテーター個人の作品への印象や六本木とのつながりについても紹介することを意識し、積極的な発言を促すよう試みた。

〈運営メンバーからの所感〉

○良かった点

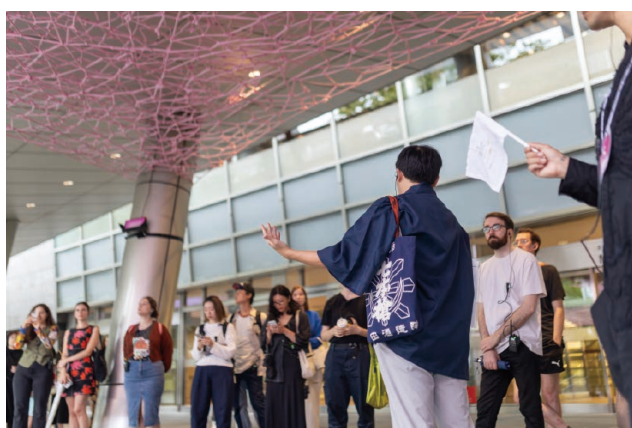
- ・ ファシリテーター、企画担当者、アシスタントはいずれも2023年度から継続しての参加となり、進行がスムーズであった。安全面では、ツアー経路が公道となるため事前にルート確認を行い、より安全にツアーが遂行できるよう努めた。
- ・ 参加者とのコミュニケーションをより深めることを意識し、今回設定した「対話」のテーマに沿った内容となった。スタッフの対応に関しても好感触のコメントがアンケートに散見された。
- ・ 当日参加を希望した方にも同行してもらうことができ、特に当日参加者の満足度は高いものとなった。
- ・ はじめての訪日外国人のほか、長く六本木エリアで暮らしている参加者にも日本の歴史に関する要素や街歩きに満足していただいた。
- ・ 文献によるリサーチから実際のフィールドワークを通じたリサーチをもとに制作したツアーは、「インターネットでは体感できない情報」を多く提供することができた。

-
- ・ いずれのツアーでも、今回導入した機材で参加者がマイクを使い全体に向かって質問やコメントをすることができ、より能動的な参加を促すことができた。
 - ・ ツアー①は雨だったものの、途中で作品鑑賞により雨をしのいだほか、事前リサーチにより地下道経由のルートを把握していたため、臨機応変に対応することができ、天候への対応についてネガティブなコメントや、ツアーの満足度への大きな影響はなかった。
 - ・ 作品の展示時間外であっても、ルートに展示会場を含むことで、後から参加者が鑑賞できるように多くの作品の地点を紹介することができた。
 - ・ テクニカルな観点で、マイクについては時折使用ができなくなるアクシデントがあったものの、全員が共通の仕様であったため、予備と交換することにより対応することができた。

○改善すべき点

- ・ 作品鑑賞を目的とする参加者が多いことを想定し、作品解説や紹介を多く織り込むようにしたが、内容の充実を目指したことにより作品解説が少なくなる傾向となった。
- ・ 2023年度のツアーで効果的とされていた、受付の時間を利用したファシリテーター・スタッフと参加者との会話の機会は、マイクのテストや予約者の到着時間の影響で、実施することがほとんどできなかった。結果としてツアーの序盤は、相互の会話よりも一方的にファシリテーターが話す「観光ツアー」として受け止められてしまった。事前の申し込みで参加者の背景を記入するようにしていたがその情報が当日のツアーで生かされなかった。
- ・ マイクの使用(声の大きさ、声の届く範囲)は、事前にテストし実感として慣れる必要性を痛感した。
- ・ 時間配分の面でも伝えようとする情報が膨大で、内容としても多岐にわたるため、話している内容がすぐに切り替わり、参加者にとっては忙しいものとなった。
- ・ 参加者の負担や内容の充実さを鑑み、90分という時間設定としたが、結果的に情報が膨大になってしまい、より情報を取捨選択し、経路を短くする必要があった。
- ・ 各地点のテーマではなくツアー全体で共通の大きなテーマを設け、最初にはっきりと伝えること、色々な時代の話をつなぎ合わせることを事前に予告するとより効果的だった。
- ・ 今回も作品鑑賞を目的とする参加者が多いことを想定してはいたものの、立ち寄る地点の多さから個別の作品に割く時間が少なく、より作品を見たかった、足早に感じたという参加者のコメントが見受けられた。一方で、作品や訪れた地点が多かったこと自体はアンケートの結果を見る限りはポジティブに受け止められており、バランスが大事であるといえる。
- ・ 公開時間外、または公開時間中でもオープンしていなかった作品については、鑑賞する機会がなく紹介にとどめた回があった。会場の収容人数の制限もあるため、どのようなルートで何を強調するべきかをより考慮する必要があった。
- ・ 事前・事後に経由した地点を地図でみたいという声があった。この点については、Google Map上のMy Map機能を使用しルートや地点情報を一般に公開し、ツアー後に手元でも見ることができるようになることを目指して準備をしていたが、ツアー中で共有する時間がなく、充実した反面、忙しく終わってしまった。次回以降、リサーチした内容を気軽に共有できるツールとしてGoogle Map等を活用していきたい。

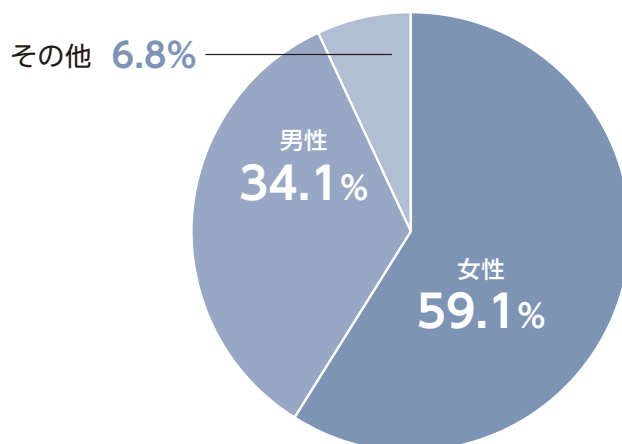
●記録写真



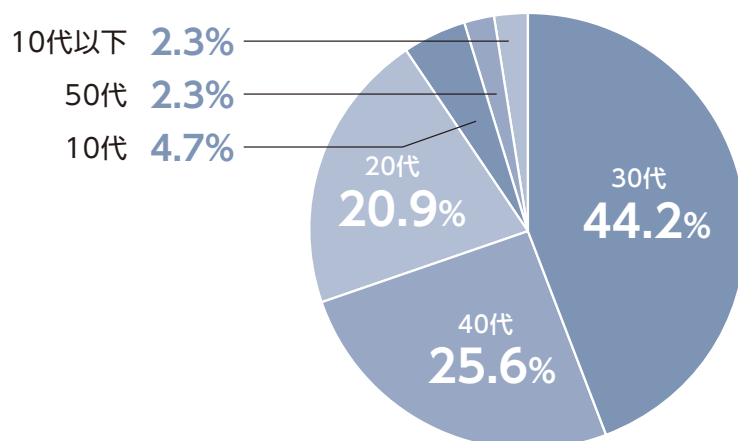
3. アンケート集計結果

回答数 n=47 (参加者合計 51 名…回収率:92%)

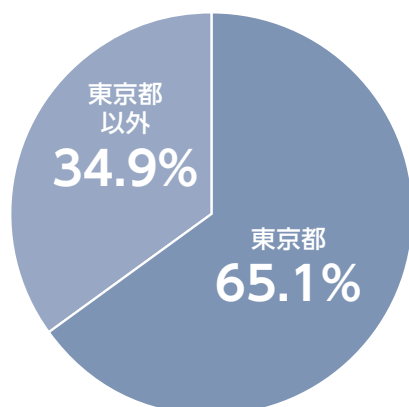
① 性別



② 年齢



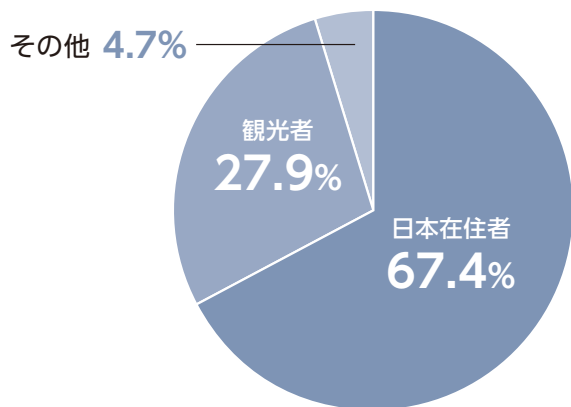
③ 居住地



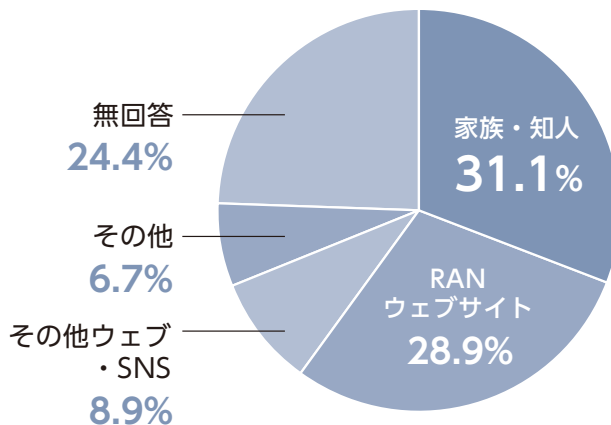
④ 出身地

日本	7	ブラジル	1
中国	7	フィリピン	1
アメリカ合衆国	5	イギリス	1
インド	3	ポーランド	1
台湾	3	ロシア	1
フランス	2	スペイン	1
カナダ	2	無回答	8
ウクライナ	2		
アイルランド	2		

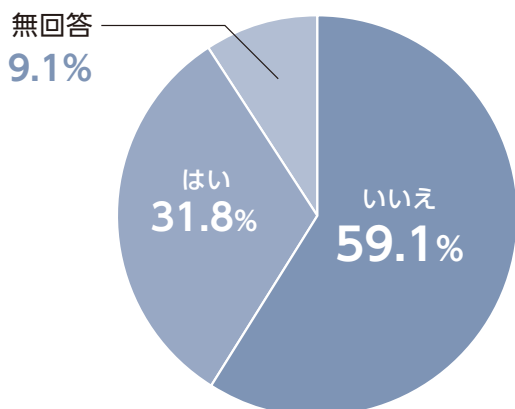
⑤ あなたは、
日本在住者ですか、観光客ですか。



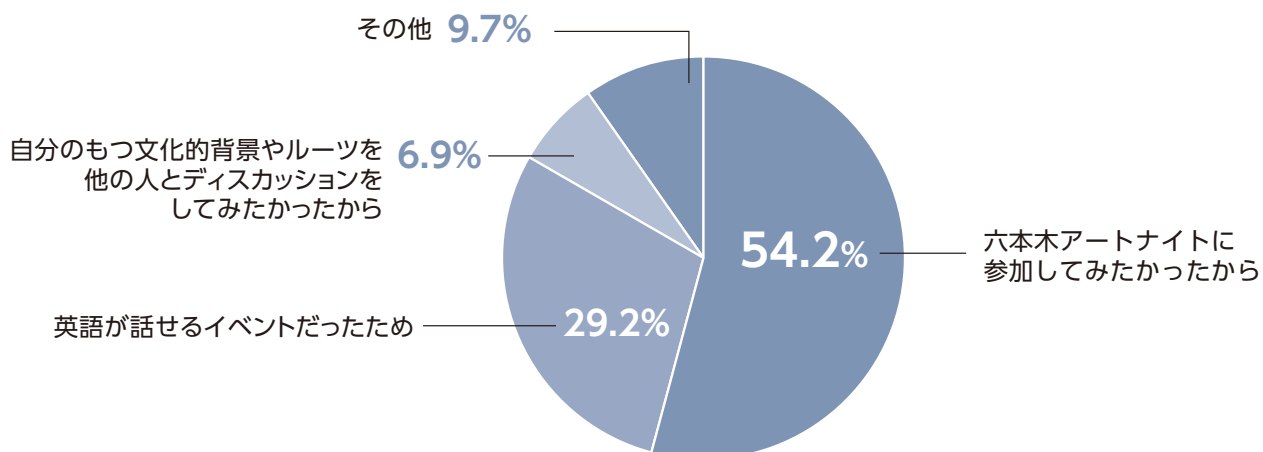
⑥ 本企画を
どこでお知りになりましたか。



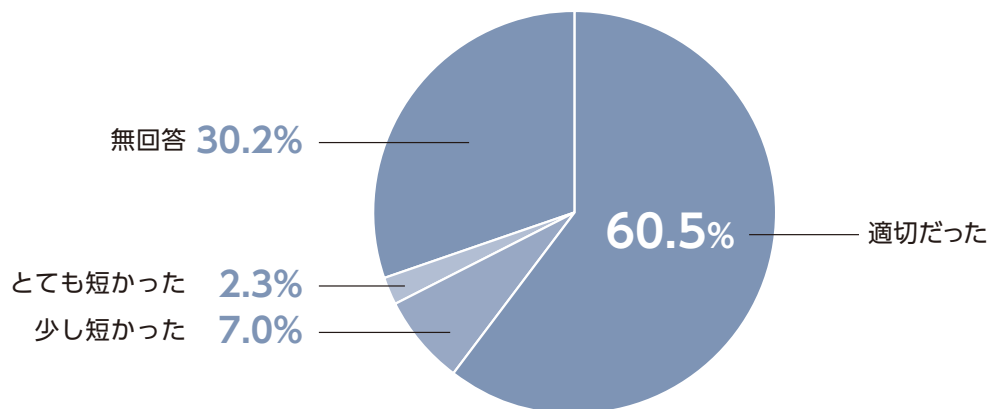
⑦ 六本木アートナイトに参加したことは
ありますか。



(a) 本企画に参加しようと思った動機は何ですか。（複数回答可）



(b) ツアーの長さはいかがでしたか。



※昨年度に引き続き、実際に街中を散策するツアーの時間は約1.5時間(90分)とした。

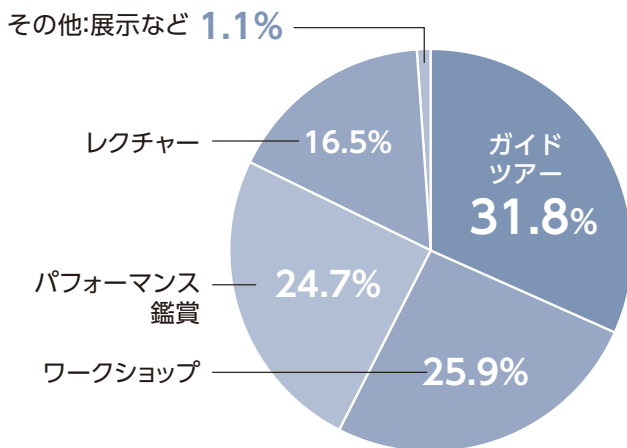
気に入った点

- アート作品の解説
- アートの多様さ、歩く距離、ツアーガイド、アート
- アート作品のみならず、六本木の歴史もあったこと
- アート作品の展示
- アートと六本木の歴史
- 六本木の歴史
- 歴史、ハイテクな通信機
- 六本木を見ることができたこと+アートを学べたこと
- 詳しい事まで知ることができたこと
- 作品解説
- 地域の歴史を知ることができた、たくさん作品を見る機会があった
- 作品や街をめぐるポイントが多かった
- 会話の仕方、出会った人たちはみな良い人だった
- 経由した場所、説明がよかった
- 作品をたくさん見ることができた
- アート、歴史、解説、スタッフがよいと感じた
- 楽しかった!
- 地域の歴史に関する情報
- ファシリテーターのポジティブ精神
- 個人的な話、アートに関する予備知識
- 六本木のメインエリアではない場所も巡ることができた
- 地域の歴史的な背景
- よく計画されていた
- 色々な場所を巡ることができた、映画の予告編のようだった
- 知らない通りを見つけたり、作品の詳細について聞くことができたり、興味深かった
- 知っている場所だと思っていた場所を改めてめぐること、特にあの小さな墓地!
- 六本木の地域の歴史
- 六本木アートナイトだけでなく、六本木の歴史について知ることができた
- 参加者との近さ、歴史の流れ
- 学べることが多い、多彩な内容、フレンドリー、全体的に素晴らしい!
- 色々な場所が豆知識と共に紹介されるのがよかった
- アートと歴史の交差
- 六本木に関するファシリテーターの個人的や地政学な話題
- 色々な国々から参加していることを知り、驚いた

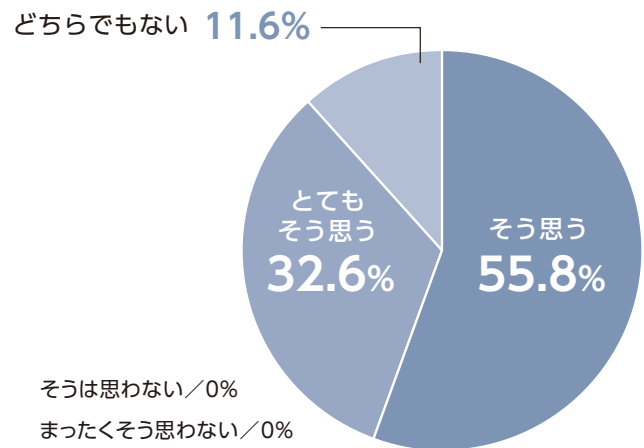
改善点についてご意見・ご感想をお聞かせください。

- もっと長くてよい
- もう少し作品を見たかった
- 少し足早だった
- 一つ一つの作品をより見たかった
- 可能なら、もう少し作品を見る時間が欲しかった
- 急ぎ足で見なきゃいけない、作品について時間、説明がほしかった
- アートナイトの他の部分も含めたらよいかも?もっと長くてもよいです
- ツアーの時間が夕方、夜であればもう少し作品が見ることができたと思う。(昼間ツアーの参加者より)
- もっと作品が見たかった
- もう少し長くてもよかった
- 一部の作品についてはもう少し時間を取ってよかった
- 時々繰り返しがあった
- 特になし
- 時間の制約があるが、もっと参加を促したり質問をしたりしてもよかったかも
- もっと参加者がいてもよい
- 子供達がかもといてもよかった

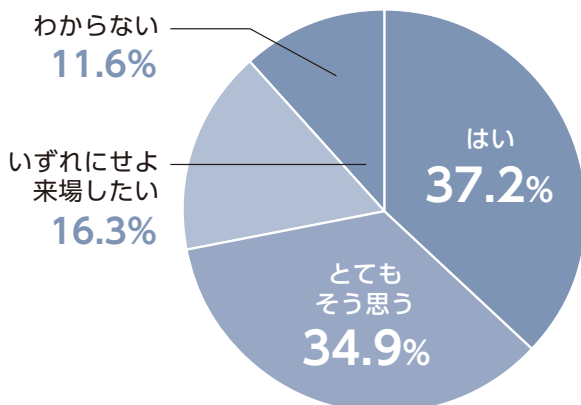
⑧ 英語の企画でどのようなプログラムに参加してみたいですか。(複数回答可)



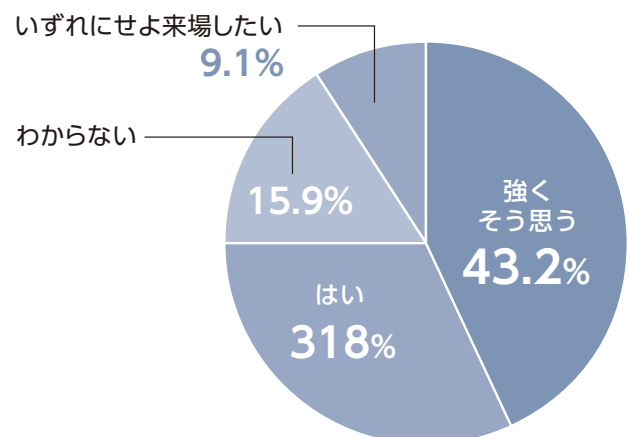
⑨ このプログラムに参加したことで、六本木への興味は深まりましたか。



⑩ 多言語の企画があれば、六本木アートナイトに再度来場したいと思いますか



⑪ ツアーがあれば、アート作品の鑑賞を助け、六本木アートナイトに再度来場したいと思いますか。



その他、お気づきの点やご意見があればご記入ください。(自由筆記)

- 素晴らしいアイデア！ありがとうございました
- よく整理されたツアー！よかったです、ありがとうございました
- 素晴らしいツアーでした
- もっとイベントがあったらいい！
- 全体的によい経験となりました
- 全体的に家族とツアーを楽しむことができました
- 良い時間を過ごせました
- とても親切でフレンドリーなスタッフで、よい時間でした。ARIGATO!!
- 期待以上に良かった！こういうアクティビティは大好きなので、もっとあると嬉しい
- ありがとうございました！
- 参加してよかった、ありがとうございました！
- ありがとう
- 雨は残念だったけれど良いツアーでした、楽しい時間をありがとう
- ツアー中はとても楽しかったです！ありがとうございました、良い日を！

〈企画協力〉

企画協力：田中・ジョン・直人

東京出身、米国カリフォルニア大学デービス校で国際農業開発学と美術史を学んだ後、都内で大手メーカー勤務を経て、東京藝術大学大学院GAP専攻修了。現在は同大の取手キャンパスを筆頭に、個人史・地域史とマクロな社会史・人類史の接続点へ、リサーチ、発表や展示、アーカイブで迫ってきた。

六本木アートナイト2024

- 開催日時： 〈メインイベント〉令和6年9月27日(金)～9月29日(日)
 ※コアタイム： 9月27日(金)17:30～23:00、9月28日(土)16:00～23:00、
 9月29日(日)16:00～20:00
- 開催場所： 六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、
 国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース
- 主催： 東京都、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)、港区、
 六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、
 21_21 DESIGN SIGHT、森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合(五十音順)】
- RAN Focus助成： 台湾文化部
- 助成： 公益財団法人大林財団

六本木アートナイト2024 外国語対応企画

英語ガイドツアー「English Guided Tour: In Dialogue with Roppongi」報告書

発行年月：2025年3月

発行者：六本木アートナイト実行委員会

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

森ビル株式会社 森美術館内

URL：<https://www.roppongiartnight.com/2024/>